

編集室

40年ほど前の浪人生時代、東京・渋谷の予備校に通った。私大文系で、英語と日本史はそれなりに必死に勉強した記憶がある。ただ、「現代文は『新潮文庫の100冊』でも読んでおけば何とかなるだろう、嫌いな古典は後でやろう」などと、まったくいい加減な受験生だった。後回しとは「やらない」という意味だと大学生になって自覚した。

予備校の授業を受けた記憶もおぼろげだ。まじめにやれば為になっただろう受験のノウハウが詰まったテキストを横目に、独学でやっていた。英和辞典や日本史の用語集にボールペンや蛍光ペンで線を引いて暗記した。紙の薄い辞書は破れるのでセロハンテープで補修したが、2、3倍の厚みになった。

なぜそんな勉強の仕方だったのかも覚えていない。理由すらなかったのだろう。良いと人が勧めることも疑ってかかる依怙地な性格が災いしたのだろうか。

「世の中ってのはね、中くらいの人間がえばるんだ。これは覚えといたほうがいいよ」

それでも、予備校の講師の一言は今も覚えている。大事な勉強の仕方や暗記法より頭に残った。日本史では評判の先生だったが、鬼籍に入られたと聞いた。

余談だが、「えばる」は威張るが転じた方言だという。興味のある方は調べてください。

その後社会人になって、誰かがえばっているのを見ると、なるほどと先生の言葉を思いだして得心した。「中くらい」を幅広く捉えれば、いろいろな場面や人間関係に当てはまる。先生は「中くらいの人間になるな」という若者へのメッセージを込めたのかもしれない。

新生活をスタートさせる卒業生は仕事やプライベートで、たくさんの人と会話したり、講義や講演を聞いたり、本を読んだり、映画を見たりと、さまざまな言葉や情報に接するでしょう。心に引っかかった言葉について考えてみることも、自分自身の成長に結びつくのではないかと考えています。

(編集長 北村 豊)

STAFF

◎取材協力

学事部	国際センター
各学部事務室	入学センター
大学院事務室	キャリアセンター
学生部	学友会
ボランティアセンター	経理研究所
中央図書館	委員会 ほか

◎写真提供&協力

「中大スポーツ」新聞部

◎学生記者

松村吏紗(国際経営4)	鈴木人生(文4)
中村美咲(文4)	三ツ巻奈央(法4)
西沢美咲(総合政策3)	森美樹(文3)
芳賀葵(法3)	櫻井陸(文3)
奥田陽太(経済2)	堪山泰瞬(商2)
島田莉帆(文2)	影原風音(文2)
海老澤英奈(文2)	倉塚凜々子(国際経営2)
白井美有(国際経営2)	谷井花蓮(総合政策2)
酒井優実(商1)	三浦菜々花(国際経営1)
北村結(総合政策1)	小西結音(総合政策1)

=順不同

◎制作協力

植田知美 塚越碧 北村美紀(株式会社CCG MANABI)
加藤タカミツ(写真家)
鈴木充(広研印刷株式会社)

Web版はこちらから閲覧できます。

「HAKUMON Chuo」の取材や
編集に携わる「学生記者」も募集中です。



NEXT
ISSUE

『HAKUMON Chuo』2023春号
No.277 4月2日発行予定

学生記者が
総力取材!!

お楽しみに!



2023 早春号 No.276

2023(令和5)年3月24日発行

発

行：中央大学広報室

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

『HAKUMON Chuo』編集担当メールアドレス：hc-grp@g.chuo-u.ac.jp